

The Incidence and Associated Factors of Sudden Death in Patients on Hemodialysis: 10-Year Outcome of the Q-Cohort Study

冷牟田, 浩人

<https://hdl.handle.net/2324/4060053>

出版情報 : 九州大学, 2019, 博士 (医学), 課程博士

バージョン :

権利関係 : ©2019 Japan Atherosclerosis Society. This article is distributed under the terms of the latest version of CC BY-NC-SA defined by the Creative Commons Attribution License.

(別紙様式2)

氏名	冷牟田 浩人			
論文名	The Incidence and Associated Factors of Sudden Death in Patients on Hemodialysis: 10-Year Outcome of the Q-Cohort Study			
論文調査委員	主査	九州大学	教授	江藤 正俊
	副査	九州大学	教授	二宮 利治
	副査	九州大学	教授	筒井 裕之

論文審査の結果の要旨

血液透析患者における突然死の発生率とその危険因子は一定の見解が得られていない。本研究は、血液透析を受けている日本人患者の突然死の発生率とその危険因子を明らかにすることを目的とした。

方法だが、18歳以上の血液透析患者 3505名の患者を10年間追跡し、突然死の発症率を検討した。またCox比例ハザードモデルを用いて、突然死の危険因子のハザード比(HR)を計算した。

結果は10年間で1735名が死亡し、そのうち227名(13%)の死因が突然死であった。突然死の発症率は1000人年あたり9.13であった。多変数調整Cox比例ハザードモデルでは、男性[HR 1.67;95%信頼区間(CI) 1.20-2.33]、年齢(HR 1.44; 95%CI 1.26-1.65 10年増加毎)、糖尿病の罹患(HR 2.45; 95%CI 1.82-3.29)、心血管疾患の既往(HR 1.85; 95%CI, 1.38-2.46)、心胸郭比(HR 1.21; 95%CI, 1.07-1.39 5%上昇毎)、血清C反応性タンパク質濃度(HR 1.11; 95%CI 1.03-1.20 1 mg/dL上昇毎)、および血清リン濃度(HR 1.15; 95%CI 1.03-1.30 1 mg/dL上昇毎)が、突然死の独立した危険因子であった。性別または年齢による層別分析では、女性では血清補正カルシウム濃度低値、ビタミンD受容体作動薬未使用、男性および65歳以上の群では短い透析時間(5時間未満)が突然死の危険因子であった。以上のように本研究は、日本人の血液透析患者における突然死の発生率とその危険因子を明らかにした。

本論文についての試験はまず論文の研究目的、方法、実験成績などについて説明を求め、各調査員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったがいずれについてもほぼ適切な解答を得た。よって調査委員合議の結果、試験は合格と決定した。